



# さいせい



発行  
**済生会西条病院**  
 2015年4月 第66号

西条市朔日市269-1  
 TEL(0897)55-5100



南棟裏の梅 撮影：医療秘書課 神原勝巳

- ごあいさつ**  
 院長 岡田 眞一
- 閉塞性動脈硬化症について**  
 循環器科 金子 伸吾
- 糖尿病・メタボリックシンドロームの運動(歩行)**
- 足のケアについて**  
 外来看護師 松本 俊子
- 済生会西条特別養護老人ホームを開所しました**  
 施設長 富永 明子
- 永年勤続表彰**
- 院内緑化「エコロジーガーデン」を導入しました**  
 総務課
- 新入職員入職式が行われました**
- ボサノヴァ・コンサートを開催しました!**  
 医療秘書課 神原 勝巳
- 越智 理恵先生による市民公開講座(第2回目)が開催されました**
- 第12回院内クリニカルバス大会が開催されました**
- 西条動脈硬化疾患治療技術研究会(START)について**  
 循環器科 金子 伸吾
- ケーキバイキング**  
 老人保健施設いしづち苑 デイケア  
 介護福祉士 坂下 優史

## ごあいさつ

## 院長 岡田 眞一



院長  
**岡田 眞一**

伊予路に春を呼ぶと言われる松山市の「椿まつり」は、例年より遅い2月の終わりに行われました。言われる通り、3月に入り、暖かい日ざしが気持ちのいい季節となり、確実に春の訪れを感じます。このような心地よい時期に、東日本大震災が起きました。今年で4年を迎えましたが、この記憶と教訓を忘れてはなりません。瀬戸内海に面した西条市も、近い将来起こると予想されている南海トラフ大地震に対して、いつも防災意識を高めておく必要があります。

さて、念願でありました西条特別養護老人ホーム(ユニット型個室100床)が病院東側に完成しました。2月1日にオープンし、少しずつ入所者の受け入れを行い順調なスタートを切りました。要介護3以上の方が入所の対象となるため、ほとんどの入所者に病院や診療所から投薬治療が行われています。予想よりも医療の必要な方が多い施設になりそうです。1階には障害者就労継続支援B型事業所ベーカーリーラ・スリーズもオープンし、玄関近くは、焼き立てパンのいい匂いがしています。不安材料として、この

4月から介護報酬の2.27%引き下げが決まりました。介護施設に大きな負担を強いる改定のため、今後の経営が心配になります。

病院については、将来の医療供給体制を実現するため、医療機関の病床機能報告制度が開始されました。今後、その地域に急性期・慢性期・回復期などの病床がどのくらい必要なのかが示されます。病院は、その医療圏の中で自院の機能と役割を考え、近隣の医療施設と連携をしていかなければなりません。当院は急性期病院としての役割を明確にしていく方針です。今後とも、どうかご支援の程を宜しくお願い申し上げます。

## 閉塞性動脈硬化症について

循環器科 金子伸吾



閉塞性動脈硬化症「ASO」は喫煙や生活習慣病（糖尿病、高血圧、脂質異常症）などによる動脈硬化が原因でおきる病気です。治療は病気の段階にもよりますが、禁煙は絶対として、食事・運動療法、薬物療法、カテーテルによる血管内手術、血管外科が行うバイパス手術があります。当院では特にカテーテルによる血管内手術（ステントなど）に力を入れています。2012年1月から2014年12月までの2年間で約150人の方にステント治療を行い、再狭窄率は18ヶ月で3%という成績が得られています。

腸骨動脈（腰から足の付け根）、大腿動脈（足の付け根から膝まで）、膝窩動脈（膝から足の先まで）という場所の分類、歩くと足がつらいという段階から足の色が悪くなり一部は壊疽となっている、という病状の分類があり、それぞれ治療法や治療後の成績、余命なども大きく異なります。最も重症とされる多部位の動脈が閉塞または狭窄による虚血が原因となった足壊疽（重症下肢虚血）という場合には半年間の生存率が40%と大腸癌よりも悪いものです。

### こんな症状があればご相談ください

1. 歩くと足がつらい、もつれる、階段があがりにくくなった
2. 足がものすごく冷たい、足の色が冬になると悪くなる
3. 深爪のあとやタコ、踵の傷が2週間以上治らない

これらは閉塞性動脈硬化症の可能性があります。エコー検査や血圧脈波検査は外来で受けられます（要予約）。心臓・血管のエコーをこれまでに1万件以上検査している技師が東芝製の最新最上位機で検査いたします。

2015年3月に心臓・血管の撮影が可能となる最新型のMRI(Philips製)も導入します。治療は全国学会でも賞賛される、完全に調整された最新の血管撮影室（GE製 Innova3131iQ Biplane）で専属のカテーテル治療チームが行います。軽症であれば3泊4日、手術時間も血管が完全に詰まってない場合は低侵襲治療で40分程度となります（完全閉塞の場合は1時間から2時間程度要しますが、腸骨・大腿領域では成功率は93%です）。2015年度には超音波で血管内の狭窄を治療するシステム（Medicon Crosser system）も愛媛県で初導入を予定しています。

足が黒色変化を伴っている最重症の場合は、循環器科のみでなく、整形外科、皮膚科、透析・糖尿病担当のドクターなど、複数診療科・職種によるチーム医療がサポートし、従来17-19件あった下肢切断を2012年には4件、2013年には0件とすることができました。

また、閉塞性動脈硬化症の患者さんの約半数に虚血性心疾患（狭心症など）が合併しているとされています。運動負荷心電図、CT、シンチグラフィーなど可能な限りカテーテル以外の方法で病変を探し、必要な方のみにかテーテル検査を行います。その上で治療が必要な方には、積極的に治療を行っています。冠動脈治療も2年間で約150人の方に行い、薬剤溶出ステントの再狭窄率は18ヶ月で2%となっています。



\*症状のない方や危険因子（喫煙、肥満、高血圧、脂質異常症、家族歴など）のない方につきましては人間ドック扱いとなりますので、検診センターに「心血管ドック」をお申し込みください。

### お問い合わせ先

済生会西条病院 検診センター TEL0897-55-5121（直通）（平日9:00~17:00）

2011年9月以来、常勤医1名の体制で手術・外来・入院診療、検診業務、学術・地域啓蒙活動等を行っております。待ち時間の短縮、確実な検査治療を行い、一人でも多くの患者さんが血管や不整脈の治療をうけられるよう、外来は紹介予約制とさせていただきます。かかりつけの先生から地域連携室を通じ、紹介予約をしていただくようご協力お願いいたします。落ち着いている患者さんは、かかりつけ医の診療所へ（病診連携）、当院で対応できない特殊疾患や外科手術となる方は連携病院（愛媛大学医学部、県立中央病院、松山赤十字病院、倉敷中央病院、国立岡山医療センター、榊原記念病院など、病病連携）に、必要に応じて紹介させていただきます。



## 糖尿病・メタボリックシンドロームの運動（歩行）

糖尿病・メタボリックシンドロームの運動療法は、いいタイミングで、適切な負荷をかけ中程度の有酸素運動を行うと効果的と言われています。運動のタイミングは食後1～2時間後（血糖値がピークに達する時）が良いとされており、逆に食前は低血糖発作などの可能性があるためおすすめできません。また適切な負荷というのは脈拍数で判断します。歩行などを、220から自分の年齢を引いた数字の50%～75%（40歳の人なら90～135）の脈拍数を維持しながら（中程度の有酸素運動）継続すると、より効果的な運動が行えます。また活発な脂肪分解は運動開始から20分前後から始まりますので時間的には20～30分程度は継続して行って頂きたいと思えます。

それともうひとつ、靴にも注意が必要です。足に合わない靴を履いて運動をすると傷の原因になることがあります。踵のカーブや土踏まずのアーチ、幅が合っているか、局所的な当たりがないか、靴と足の間に隙間やくい込みがないかなどチェックします。また足には左右差があるため必ず両足を入れて確認します。片足で立つ、しゃがむ、少し歩くなど条件を変えて問題がないか確認し、足に合う靴を選びましょう。

まずは運動を開始し習慣づけることが大切です。しかし、合併症や関節の状態などの体調によっては運動が制限されたり、禁止されたりすることがあります。運動を開始する際は主治医の先生に必ず相談して、自分にあった運動を考えていきましょう。

## 足のケアについて

外来看護師 松本 俊子

「人に足を見せるのは、ちょっと恥ずかしい…」そんなあなたに、少しでも関心を持って頂けるように、足のトラブルと予防・お手入れについて簡単にお話したいと思います。

足の変化には目に見える変化と見えない変化があります。足がしびれる・違和感がある・ほてる・冷える・つる・こむら返りが起こる・長く歩くとふくらはぎが痛むが休むと治る・爪が切りにくい・よくケガをする（知らないうちにケガをしている）・ケガがいつまでも治らない、などなど思い当たる方は、いらっしゃいませんか？

糖尿病の患者さんは、胼胝（たこ）、鶏眼（うおのめ）、巻き爪、水虫、乾燥、ひび割れなどが起こりやすく、また、すぐに重症化しやすいので特に注

意が必要です。

足のトラブルは、予防と毎日のお手入れが大切です。特に、正しい爪の手入れと足の清潔を保つことは重要です。

伸びた爪は、ケガのもと。深爪は爪周囲の組織を傷つける原因となり危険です。胼胝（たこ）や鶏眼（うおのめ）も自分で削らず医療機関に相談しましょう。

足の裏や指の間も丁寧に洗い、洗った後は、清潔なタオルで、水分をしっかりとふきとりましょう。乾燥しないように保湿にも心がけて下さい。

糖尿病教室やフットケア外来で詳しくお話しておりますので、お気軽にお問合せください。



爪の切り方



# 済生会西条特別養護老人ホームを開所しました

施設長 富 永 明 子

平成27年2月1日に済生会西条特別養護老人ホームを開所しました。1月31日に開催した内覧会及び落成式典では済生会本部の炭谷理事長から心温まる祝電を頂戴しました。また西条地方局長、西条市長からも祝辞を頂き多くの来賓者の参加のもと盛大に式典を執り行うことができました。

この特別養護老人ホームは西条市の「高齢者福祉計画・第五期介護保険事業計画」に基づき計画された広域型特養です。建物は延床面積6898.19㎡、鉄筋コンクリート造り4階建てです。定員にはユニット型個室100床、ショートステイ9床、デイサービス定員30名です。1階に訪問看護ステーションも同日に開所しました。同じく1階にはNPO法人石錠が運営するベーカリー ラ・スリーズが開業しました。このベーカリーは就労継続支援B型事業者で一般の企業への就労が困難な方に就労の機会を提供するとともに、知識や能力の向上のために必要な訓練を行うことを目的とした事業所です。手づくりのパンの香りがロビーを包み込みとても良い雰囲気が感じられます。

本年4月の介護保険の改正により特養への入所は原則的に要介護度3以上と定められています。介護の現場はますます過重な労働環境となると予想されますが介護報酬は引き下げられました。この厳しい環境での船出に施設長を拝命したことに責任の重さを感じます。試行錯誤の日々ですが今後も利用者さんや職員のために微力ながら尽力致します。



最後に工事関係者の皆様、騒音や砂埃などでご迷惑をおかけした近隣住民の皆様、開所まで施設見学や実習等を受入れて下さった関係施設の皆様、西条病院、いしづち苑の皆様に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

## 済生会西条特別養護老人ホームの理念

私たちは、済生会創立の「救療済生」の精神に基づき、ご利用いただく方の貴重な人生を尊重し、人のぬくもりとあたたかさが感じられる施設運営をめざします。

## 基本方針

1. 私たちは、地域の人々と共に福祉の向上に努め、地域の人々の輪を広げます。
2. 私たちは、心身の不具合があってもその人が尊厳を伴って人生を全うできるように支援します。
3. 私たちは、全ての職種が協力して、質の高い介護サービスを提供します。
4. 私たちは、質の高い介護サービスを提供できるよう、日々研鑽に努めます。
5. 私たちは、法令を遵守し、明るく開かれた施設を目指します。

## <お問合せ先>

済生会西条特別養護老人ホーム  
〒793-0028 愛媛県西条市新田109番地-1  
TEL0897-55-5130 FAX0897-55-0340



# 平成26年度 済生会学会・総会

## 永年勤続表彰

平成26年度の全国済生会総会は2月15日(日)に福岡市の福岡サンパレスで行われました。済生会西条病院といしづち苑からは下記の皆さんが永年勤続表彰を受けられました。長年のご労苦に感謝し、今後ますます活躍して頂くよう期待致します。

### 勤続30年表彰、名誉会員表彰を受けて

～いつの間にか35年～

名誉院長 常光 謙輔

去る2月15日に福岡市で開催された平成26年度済生会総会で総裁 秋篠宮殿下から勤続30年と名誉会員の表彰状を授与されましたが、大変光栄なことと感謝しております。

私が西条に来たのは昭和55年(1980年)でしたのでちょうど35年になりますが、医師になりたてのころ、岡山済生会総合病院の外科に2年間だけ勤めたことがありますので、トータルすると済生会には37年勤めたこととなります。

済生会西条病院の院長として平成17年(2005年)3月まで、平成17年4月から平成22年(2010年)3月までは名誉院長・センター長・いしづち苑々長として、平成22年4月から現在までは名誉院長・いしづち苑々長として勤めてきました。今年2月に開設された特別養護老人ホームの建設にあたってもしは貢献できたのではないかと考えております。

この間、大過なく勤めることができたのも先輩、同僚、後輩の皆さん方や関係の皆さん方のご支援・ご協力のお蔭だと深く感謝しております。現在の私の仕事は厳しい医師不足の中で業務のすき間を埋める「すき間産業」のような仕事ですが、今後も気力・体力が続く限りは済生会病院やいしづち苑のために頑張ろうと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

### 永年勤続表彰(勤続30年を迎えて)

院長 岡田 眞一

第67回済生会学会・平成26年度済生会総会が、平成27年2月15日に福岡県済生会福岡総合病院の担当で開催されました。総会では、毎年名誉会員、有効会員、功労会員、寛水賞、30・20・10年永年勤続の表彰が行われます。今回は、勤続30年以上、総数230人の被表彰者の代表として炭谷理事長から表彰を受けました。この総会は、済生会総裁である秋篠宮殿下のご臨席の下で行われるため、会場はとて厳かです。個人的に、昨年11月に体調をくずして歩行に不安があったため、舞台上上がる階段で転倒するのではないかと、一抹の不安を感じていました。名前を呼ばれ、階段前に行ったところ、思っていたよりも階段が急であったため、やはり心配になりました。注意して壇上に上がり、何とか転倒することもなく、代表者としての任務を全うしました。

思えば、昭和58年3月に愛媛大学医学部大学院を卒業し、翌4月から済生会西条病院での勤務が始まりました。在学中、当時の大田康幸教授から、「大学院生は、卒業後も大学に残り研究者や教職員として頑張るように」と言われていましたが、赴任1ヶ月くらい前に、急に「少しの間、外の病院で臨床の腕を磨いてくるように」と言われ、それから当院に赴任してきたわけです。その後、教授が交代となり、また、この病院の雰囲気私に合っていたのか、今日まで他の医療機関に変わることもなく、気がつけば、あっという間に30年が過ぎていました。今は、このように転動することもなく、同じ病院ですと勤務する医師は珍しい存在です。これからも、医療を通して人の役に立つように努力していきたいと思っております。今後とも宜しくお願い致します。

済生会 西条病院			
◆30年表彰者◆		◆10年表彰者◆	
院長	岡田 眞一	皮膚科部長	宮田 美穂
副看護部長	木村 好子	泌尿器科部長	越智 達正
看護師長	矢野 美也子	看護師	宮本 久子
栄養部科長	越智 泉	経営企画室係長兼経理課係長	大仲 均
◆20年表彰者◆		総務課主任	日野 一路
看護師	杉 めぐみ	施設管理課主任	菊池 潤
看護師	永井 昭紀	医事課主事	工藤 晃久
看護師	三神 真弓	看護助手	浮田 景子
診療放射線技師	松岡 勝洋		
診療放射線技師	芥川 幸雄		
主任臨床工学技士	桑原 将司		
業務員	吉本 真夫		

老人保健施設 いしづち苑	
◆30年表彰者◆	
苑長	常光 謙輔
事務長	矢野 泰利
◆20年表彰者◆	
主任介護福祉士	川崎 裕子
主任代理介護福祉士	白岡 由佳
介護支援専門員	近藤 笑子
介護支援専門員	田頭 三枝子
◆10年表彰者◆	
介護支援専門員	藤田 秀子
支援相談員	平川 美幸
作業療法士	塩崎 浩也
介護福祉士	浦田 隆幸



## 「院内緑化エコロジーガーデン」を導入しました 総務課

癒しの空間演出と空気浄化を目的に平成26年12月から院内緑化エコロジーガーデンを導入しました。環境問題であるCO2の削減に貢献し、来院されたかたに「安らぎ」「潤い」「憩い」をご提供できればと思います。

なお院内エコロジーガーデンの設置は、ご賛同いただきました企業の協賛によって行われており、企業名を院内エントランスなどに掲示しております。現在エコロジーガーデンの運営にご協力いただける企業を募集しております。詳しくは総務課までお問い合わせください。



## 新入職員入職式が行われました

平成27年1月5日に新入職員入職式が行われました。今年は2月に特別養護老人ホームが開設されることもあり、約30名の職員が入職し研修を行いました。開設に向けて準備を進めてきた特別養護老人ホームもようやくスタートラインに立ち、新たな第一歩を踏み出しました。新しく加わった職員とともに私たちも一緒に一歩ずつ進んでいきたいと思ひます。



## ボサノヴァ・コンサートを開催しました! 医療秘書課 神原 勝巳

平成27年1月10日にボサノヴァ・コンサートを開催しました。1950年代ブラジル、リオデジャネイロの若者たちから生まれた新しい音楽が『ボサノヴァ』です。当院では平成18年からほぼ毎年、リオデジャネイロ在住のボサノヴァ歌手、MAKOさんをお招きして外来ロビーでコンサートを開催しています。今回は全国21カ所を巡る多忙なスケジュールにもかかわらず、7弦ガットギタリストの山田“やーそ”裕さん、ベーシストの沢田 譲治さんとともに素晴らしいステージを披露していただきました。

ボサノヴァといってもさまざまな曲がありますが、MAKOさんのアルバム『Algumas Cores』（2009）はボサノヴァに和のテイストをブレンドした作品です。ボサノヴァの歌詞はポルトガル語ですが、その声は優しく包み込むようです。そして低くつぶやくように響くベースの音。どこまでもみずみずしく響く7弦ギター。全身に音を浴びつつ、ボサノヴァは癒やしの音楽なんだな…と感銘を受けたコンサートでした。



## 越智 理恵先生による市民公開講座(第2回目)が開催されました



済生会西条病院では地域貢献の一環として、当院の専門医師による市民公開講座を開催しています。今年度は2回の開催となりました。

その第2回目が平成27年2月24日(火)に、眼科医長 越智 理恵先生による「加齢に伴う目の病気について」というテーマで開催されましたので紹介します。

加齢に伴って起こる「目の病気」のなかで、特に発症頻度の高い白内障や緑内障などについて、最新の情報や知識をもとに適切な治療や病状の進行を抑え、視機能を維持する対策などが紹介されました。特にほとんどの人が経験すると想定される白内障の手術については、動画での紹介とともに術後の効果や注意点など詳しい説明がありました。

会場の西条総合福祉センターには予想をはるか

に上回る156名の方に来場いただきました。参加者からは「とてもよくわかった」、「また参加したい」という声が多く聞かれ、感謝の言葉もいただきました。

なお第1回目は、循環器科医長 金子 伸吾先生による「心臓と血管の病気はこわい」というテーマで、平成26年11月25日(火)に開催され大好評でした。市民公開講座を今後も定期的に開催し、市民の皆様の健康で豊かな生活を支援していきたいと考えております。



## 第12回院内クリニカルパス大会が開催されました

平成27年2月27日に第12回院内クリニカルパス大会が開催されました。

クリニカルパスとは一定の疾患や検査ごとに、その治療の段階および最終的に患者が目指す最適な状態(到達目標)に向け、適切な医療の内容をスケジュール表にしたものです。

年に1~2回開催している院内パス大会も今回で12回目を迎えました。今回のテーマは「バリエーションを知ろう」でした。バリエーションは治療の段階で発生したクリニカルパスとの差異のことです。多くの分野でPDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルにより改善が行なわれますが、パスにおけるバリエーションはCheckにあたります。各病棟のパス委員が「人工股関節置換術」、「胆嚢摘出術」、「内視鏡的大腸ポリープ切除術」のパスのバリエーションを集計し報告しました。バリエーションを記載したシートからデータを収集することは簡単ですが、

記載されていない内容も多く大変な作業であったと報告がありました。バリエーションの分析は質の改善に重要な役割を果たします。職員の皆さんにはバリエーションチェックの継続とバリエーションが発生した理由の記載にご協力をお願いします。

さらに今回のパス大会ではアウトカムとバリエーションの用語と重要性について「ガンダム」の模型を作ることを例に挙げて、昨年度まで西条中央病院でパス委員長をされていた整形外科相澤医師にわかりやすく講演していただきました。バリエーションの重要性について皆さんご理解いただけただけでしょうか?皆さんの地道な記載がパスを通じて医療の質を向上させます。

今後も患者さんに安心して医療を受けていただけるように努力を継続します。次回は「アウトカム」をテーマに開催したいと考えています。



# Saijo Transcatheter Arteriosclerosis Revascular Therapeutics (西条動脈硬化疾患治療技術研究会=START)について

循環器科 金子伸吾

循環器科では「地元で受けられる高度医療」ということをスローガンとして、血管治療には久保一郎先生（上尾中央総合病院）、不整脈治療には山内康照先生（横浜みなと赤十字病院）に定期来院をいただき、難易度の高いカテーテル手術を行っています。このことにより血管内治療は心血管、下肢動脈（腸骨・大腿領域）において、初期成功率98%、18ヶ月再狭窄率2%を実現、発作性心房細動に対するカテーテルアブレーションも1次成功率97%、2次成功率99%となっています。

加えて、概ね3ヶ月に1回の頻度で全国から特別講師を招聘し、地域連携講座（医療関係者限定）を行っています。第1回を2012年8月に行って以来、これまで9回開催し、当初は20名程度の参加でしたが、医師会、薬剤師会の後援もいただき、2015年1月に行われた第9回では約200名の参加をいただきました。

この公開講座では不整脈、虚血性心疾患、閉塞性動脈硬化症、心臓弁膜症、心不全などをテーマに日常臨床から最新の知識まで知識偏重・利益誘導のない講演を目指しています。

また、冠動脈、末梢動脈それぞれ1年に1回から2回の頻度で「世界のSuper expert」に特殊治療をお願いし、全国からカテーテル治療医が見学研修に来ています。SaijoからShikoku、そしてSekaiへ。心血管治療の分野で「世界の加藤修先生」を輩出した地元として、一人でも多くの患者さんがよりよい治療を受けられる環境作りを行って参ります。



2014年のSTART-EVTライブにて

## ケーキバイキング

老人保健施設いしづち苑 デイケア 介護福祉士 坂下 優史

通所リハビリテーションでは、去る2月26日(木)にケーキバイキングを行い、利用者さんと一緒に楽しみました。バイキング形式にすることでケーキを選ぶ楽しみや考えるきっかけをつくりました。ドリップコーヒーの匂いと色とりどりのケーキで五感を刺激しバレンタインの季節感を感じていただくことを目的に実施しました。

当日は抹茶、チョコ、フルーツケーキなど6種類のなかから自由に3個、飲み物はコーヒーか紅茶を選んでいただきました。職員が準備をしていると、「今日は何やるんぞね」と早くも興味津々の利用者さんもおられ、より一層、楽しんでいただきたい、喜んでいただきたいという気持ちが強くな



りました。実際にケーキを目の前にし「どれがおいしかるか」と嬉しそうな表情でケーキを選ばれている姿がとても印象的でした。

ケーキバイキング終了後、「たまにはこんなんもええねえ」や「コーヒーおいしかったよ」という声も聞くことができました。なかにはエプロン姿の職員を見て「よう似おとる」と言

ってくれる利用者さんもいました。

今回のケーキバイキングはとても好評でした。今後も利用者さんに、より喜んでいただける企画を実施していきたいと思ひます。